

愛媛大学医学部

同窓会会報

2022 NOVEMBER No.38

発行日／令和4年11月1日
編集発行人／薬師神 芳洋
発行／愛媛大学医学部同窓会
〒791-0295
愛媛県東温市志津川
TEL(089)960-5989
印刷／太陽印刷株式会社
TEL(089)932-2881



表紙紹介

1983年3月「5期生卒業写真」

CONTENTS

常任幹事挨拶	2
卒業生からのメッセージ	3
新任教授からのメッセージ	3
退職教授からのメッセージ	5
恩師をおたずねします	6
愛媛大学医学部同窓会会則 細則 申し合わせ事項	7
50周年に向けて、5期生雄志座談会	8
活躍する卒業生	14
第38回総会報告	15
医学部課外活動(文化部)紹介	16
支部紹介	17
愛媛プラチナドクターバンク事業のご案内	18
役員一覧	18
あとがき	19
お知らせ	20

常任幹事挨拶



藤山 幹子 (平成元年卒、11期生)

国立病院機構 四国がんセンター 副院長

愛媛大学医学部同窓会会長薬師神先生からのご指名により、今回の巻頭の挨拶を担当させていただきます11期生の藤山です。勤務先が大学ではありませんので、50周年に向けての医学部の取り組みなどのお話ではないことをご了承ください。

11期生は一言でいえば活発な学年で、在学中は学祭、医学祭、各種公の行事にとどまらず、さまざまな催しが企画され実行されました。卒業アルバム制作での写真集めに全く困らなかったことが、そのactivityの高さを物語っています。120人あまりのうち20人ほどが女性で、当時としては女性の割合が高いと驚かれていました。リーダーシップをとれる女性が多くいたことも、学年のactivityの高さに関係していたかもしれません。卒業後もそのactivityは維持されているようで、同期は各分野で活躍し、どこの病院施設に行っても相談できる相手がいるということが、大変有難いです。

私はというと、卒後はそのまま愛媛大学の皮膚科に入局し、医師になってからの4分の3の時間を愛媛大学で過ごしました。卒後20年をすぎる頃には、大学の常勤女医の中で最も年齢が高い一人となり、小児科の楠目先生が立ち上げられた女性医師部会の会長を引き継ぐこととなりました。自分に会長がまわってきて初めて、どれほど大学で臨床医として勤め続ける女医が少ないのかを実感しました。女性医師部会には、臨床科のみならず基礎からご参加いただき、女子医学生と定期的に茶話会(マドンナサロン)をして目標をもってもらおうよう努めたり、院長との懇話会で女医が勤め続けるために必要な施設や制度についての要求を直談判したりという活動を行いました。診療科を超えた繋がりができ、有意義で楽しい活動でした。

女性の常勤医師が大学に少なかった理由の一つは、妊娠出産後の勤務がしにくいということでした。実は当時も、利用できるさまざまな制度がすでにあったのですが、必要な人に正確に伝わっていないことが問題でした。それぞれの医局で、これまではこうだったと説明をうけ、あるいは噂をきき、出産を機に退職するものだと思ってそのまま退職する、育児のための時短制度は利用した人がいないという理由で取得できない、などが当たり前になり通っていました。制度の手引き本のみでは理解が十分ではないため、説明を受けることができる窓口を医学部内に作って欲しいと女性医師部会から要望を出しましたが、人手不足を理由に叶えられませんでした。とはいえ、女性医師支援の流れの中、県医師会からのバックアップもあり、私が大学に在職している間かなり状況は改善してきていました。今はもう、制度利用は当たり前になっていると思いますし、制度の内容も充実しています。私が現在いる職場では、妊娠した医師、育休をとりたい男性医師が、事務職員からワークライフバランス応援ガイドブック(国立病院機構により作成)により、利用できる制度の説明を受けます。本人の思うように休暇をとり、思うように働いているかといえば、まだまだ不十分なのだと思いますが、一昔前にその道を通ってきた私からすると、隔世の感があります。

社会の女性支援の流れの中、組織の中においても女性メンバーがいることが求められるようになり、この医学部同窓会にも役員として加わることになりました。しかし、その後まもなく2018年に、私は国立病院機構四国がんセンターに異動しました。異動を薬師神先生にお伝えしたところ、愛媛大学以外の役員もおきたかったから丁度よかった、このまま続けてくださいと言われ、異動して様々ながらみから解放されて身軽になるという私の目論見ははずれました。しかも、新任地においても当然ながら女性が加わる必要のある委員会などに参加することになり、あまり身軽にはなれませんでした。皮膚科医としましては、がん専門病院では珍しく、皮膚がんの治療をしないいわゆる一般皮膚科医として、最も興味があった抗がん剤の皮膚障害と一般皮膚疾患の診療をマイペースで行ってきましたが、2020年に併存疾患センターが立ち上がり、センターの長となりました。もともと愛媛医療センターや松山市民病院から非常勤で診療にいらしていただいていたところに、愛媛大学からも循環器、糖尿病内科、眼科の先生方に常勤、非常勤でいらしていただけるようになり、おかげさまで充実した外来となっています。そして、今年7月には副院長の役を拝命いたしました。今は、どのように病院運営のお役に立てるのか模索しているところですが、近くの愛媛大学病院に、そして県内、県外の病院に、同窓の皆様がいらっしゃることを大変心強く思っています。ご指導およびお力添えのほど、何卒よろしく願っています。



鍋加 浩明 (平成16年卒・26期生)

(松山大学薬学部医療薬学科 教授)

2022年4月より松山大学薬学部医療薬学科生理化学研究室教授を拝命しました鍋加(なべか)と申します。愛媛大学医学部同窓会の皆様にはいつもお世話になっております。広報担当役員として愛媛大学医学部同窓会Facebookページの作成や、コロナ以降においては同窓会総会のWeb配信等を担当させて頂いた他、一昨年には同窓会報第36号のあとがきも書かせて頂きました。

私は平成16年卒業で、卒後臨床研修が必修化された最初の学年となります。松山赤十字病院で2年間のスーパーローテート研修を行い、清水一郎麻酔科部長(現副院長)を始め多くの同窓の先輩方にご指導を頂きました。初期臨床研修終了後は学生時代からお世話になっていた解剖学・発生学講座松田正司教授のもと大学院に入学し、濱田文彦准教授(現大分大学医学部教授)にご指導頂き、その研究成果で愛媛医学会奨励賞を受賞しました。大学院卒業後も解剖学・発生学講座で教育・研究を継続し、2018年には日本解剖学会奨励賞を受賞しました。

教育では主に大学2年生の解剖実習で後輩の指導に力を入れて参りました。2021年および2022年にはコロナ禍での遠隔講義等が評価され、目標としていた医学部Best Teacher賞も頂くことができました。現在、松山大学薬学部では病態学を中心に医学全般を教育しております。ライフワークとしている解剖教育から一旦離れることになるかと思いましたが、生体構造医学講座(旧解剖学・発生学および機能組織学)の武内章英教授のご厚意により、客員教授として医学部の解剖実習にも継続して携わらせて頂いております。また着任早々ではございますが本年度より愛媛医療教育解剖研究会の一員として薬学部の学生も夏休み期間中のコメディカル解剖実習に参加させて頂きました。

薬学部において薬剤師の中で唯一の医師教員であるばかりか他学部に至っては全て文系学部という新天地で心新たに日々過ごしております。愛媛大学・松山大学の共同研究の他、愛媛大学医学部同窓会の皆様には今後ともご協力をお願いするとともに、広報担当役員として同窓会総会のWeb配信等を行っていく予定としております。愛媛大学医学部同窓会Facebookページも是非よろしくお願ひします。

最後になりますが多くのご支援を賜りました皆様に感謝致します。

愛媛大学医学部同窓会Facebookページ <https://www.facebook.com/groups/ehimedoso>



高尾 正樹

(愛媛大学大学院医学系研究科 整形外科学 教授)

愛媛大学医学部同窓会会員の皆様、令和4年4月1日付で、愛媛大学大学院医学系研究科整形外科学の教授を拝命いたしました。私は平成10年に大阪大学を卒業し、同大学整形外科学講座に入局しました。大阪大学医学部附属病院と関連病院での研修を経て、平成14年に大阪大学大学院に入学し、特発性大腿骨頭壊死症の病態研究、コンピュータ支援外科の技術開発を行いました。平成17年に大学院を卒業し、その後1年で特任研究員として大阪大学に戻り、“データサイエンスで整形外科手術をアートからサイエンスへ”をテーマとして、ナビゲーション、ロボット、人工知能、拡張現実などの先進医療の開発、応用をすすめ、情報工学者と臨床データをビッグデータとして共有し、股関節を中心とした関節疾患の病態解明・診断・治療に関する研究を行ってきました。また最新のコンピュータ技術を運動器バイオメカニクス研究に応用し、ジョンスホプキンス大学(米国)、バルン大学(スイス)、奈良先端科学技術大学院大学との共同研究として進めてきました。特発性大腿骨頭壊死症の病態研究も継続し、厚生労働省指定難病の研究分担者として活動し、国際骨循環研究学会のガイドライン策定にも参画いたしました。

4月1日に赴任後、関連病院のうち主要な17病院を単独訪問し、実力と活力ある指導者と、目の輝きのある若い医師に出会い大変可能性を感じました。また愛媛県の自然の美しさ、人の温かさ、食べ物のおいしさを実感してまいりました。一方、他の地域と同様に人口減少、超高齢社会、医師不足、医療従事者の働き方改革など問題が山積みであることも実感いたしました。その中でデジタル技術の果たす役割は大きく、整形外科とデータサイエンスの融合を推し進めたいと考えています。愛媛大学医学部同窓会会員の皆様には、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



藤澤 康弘

(愛媛大学大学院医学系研究科 皮膚科学 教授)

愛媛大学医学部同窓会会員の皆様、2022年5月1日より皮膚科学講座の教授を拝命致しました藤澤康弘と申します。私は神奈川県出身で、小学校のときに父の仕事の関係で米国テキサス州にて3年間を過ごし、英語が全く分からないのに現地校に放り込まれたトラウマは今でもあります。その経験のおかげでこれまで「英語の勉強」をしたことがありません。その後、筑波大学医学専門学群に入学し1998年卒業と同時に母校の皮膚科学講座に入局しました。

元々手術に興味があったこともあり、マイナーな皮膚科の中でも更にマイナーな皮膚腫瘍を専門とすることを決意、2000年に国立がん研究センター中央病院の外科系皮膚科レジデントとして3年間の研修をさせて頂きました。その後の大学院では当時盛んに研究が行われていた樹状細胞を用いた癌免疫療法の研究もしましたが、残念ながら癌の免疫治療は期待されたほどの効果が得られず閉塞感が漂っていました。そのような中、2011年に免疫チェックポイント阻害剤である抗CTLA-4抗体のIpilimumabが、2014年には抗PD-1抗体のNivolumabが登場し、メラノーマの治療は大きく変わりました。この免疫チェックポイント阻害剤を最初に使い始めた皮膚科は、自分を含め様々な分野で先進的な研究をすることができました。2015年には米国Duke大学でB細胞と免疫チェックポイント阻害剤の併用療法の基礎研究を行い、米国特許も出願しています。この激動の時期に皮膚がんに関わられたのは本当に幸運でした。

また、昨今発展が著しい人工知能(AI)に関連した研究も行ってきました。皮膚腫瘍を判別するAIを開発し、良悪性判定では皮膚科専門医を凌駕する正答率を達成しています。ただし、これはあくまで写真1枚での判定ですので、皮膚科専門医はもう要らない、という話ではありません。本年8月からは日本皮膚科学会AI委員会の委員長を拝命しましたので、皮膚科学会が主導するデータベース構築だけでなく、AI開発を含めたデータ活用も行って参りたいと考えております。

今後の教室運営ですが、女性医師の多い科ですのでこれまで以上に柔軟な働き方を提案することで、様々なライフイベントがあってもキャリアを継続出来るようなシステムを構築したいと考えています。地域医療の維持にはマンパワーが必要です。多くの愛媛大学の卒業生に我々の教室を選んで頂くために、今後も魅力的な皮膚科学教育・研究・臨床を提供していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



越智 博文

(愛媛大学大学院医学系研究科 難病・高齢医療学 教授)

愛媛大学医学部同窓会会員の皆様、2022年6月1日付けで愛媛大学大学院難病・高齢医療学講座の教授を拝命いたしました越智博文と申します。難病・高齢医療学講座は新居浜市の寄付により2022年4月に開設され、現在、脳神経内科を専門とする私と、循環器内科を専門とする榎垣彰典助教の2人体制で、講座と十全総合病院サテライトセンターの運営を行っています。

私は1993年に九州大学医学部を卒業して以来、神経免疫学を専門として主に免疫性神経難病の臨床と研究に従事してきました。その後、2011年に愛媛大学大学院加齢制御内科学講座(現 脳神経内科・老年医学講座)へ異動したことをきっかけに、認知症やパーキンソン病関連疾患など高齢者に多い脳神経疾患の臨床と研究へと、その活動範囲を拡大してきました。高齢化が進む社会においては今後さらに、これらの脳神経疾患が増加するとともに、脳卒中や心筋梗塞、心不全などの血管・循環器疾患の増加が予想されます。そのため、我々脳神経内科医や循環器内科医に期待される役割、活躍できる分野は年々大きくなっています。また、これからの難病・高齢者医療においては、地域包括システムを構築するなかで難病患者や高齢者が安心して生活できるよう、単に診断して治す医療ではなく、治し支える医療の提供が重要になってくると考えられます。そのため、地域での診断・治療はもとより、西条保健所および新居浜市保健センター、地域医療機関、在宅往診医、地域包括支援センター、介護施設などとの連携を進展させ、地域での在宅療養支援体制の充実を図る必要があります。従って、本講座の重要な役割として、新居浜市圏内における地域医療への貢献、愛媛県東予地区における難病ネットワークの構築、愛媛大学および十全総合病院における人材育成、地域における啓発活動が挙げられます。脳や血管の老化に関連する疾患の診療と研究は益々その重要性を増していきます。この領域の臨床的・基礎的研究を推進するとともに、次世代の医師の育成にも努めて参りますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



八杉 巧 (昭和57年卒・4期生)

(愛媛大学大学院医学系研究科 基盤・実践看護学 教授)

退任のご挨拶

愛媛大学医学部同窓会の皆様、2023年に医学部開学50周年を迎えるにあたり、益々ご活躍のことと存じます。私は1982年に4期生として愛媛大学医学部を卒業し、40余年に渡り同医学部に育ていただき今年度で退職を迎えます。今日までの皆様のご厚情に感謝申し上げるとともに私の歩んだ道をお話ししたいと思います。卒後恒川謙吾教授率いる愛媛大学第一外科に入局しました。先輩方からは「お前は内科向きだ。」と勧められましたが、「身体の中をじかに視てみたい。」という欲求が抑えきれず外科を選択しました。初期研修ののち、大学院に進学し、上原康生教授のもと形態学をみっちり研鑽し、妊娠ラットの乳腺血管新生形態を解析し、博士号をいただきました。以後は主に血管外科診療を担当しています。外勤を経て大学に帰局した1995年に実家の神戸が被災し、2年ほど松山で両親と祖母の面倒見ながら勤務した過酷な日々も忘れられません。

その後の転機【その1】2008年にそれまでの第一、第二のナンバー外科を廃し、臓器別外科3講座に再編され、私は心臓血管・呼吸器外科医として再スタートしました。統合に伴い旧医局の何名かが退局するという悲しい事態もありましたが、各講座の専門化推進とともに多くの飛躍的・革新的な業績も生み出されていき、「外科軍団」として確固たる腕力が醸成されていると思います。【その2】2013年2月某日医学科6年生の国家試験出発式に参加している際に当時の安川正貴学部長にボンと肩をたたかれ、「臨床医学教育をさらに充実させたいので看護学科に赴任してくれ。」と告げられました。やはり当時の檜垣實男院長からも「臨床も変わらず続けて。」と励まされ、心臓血管外科泉谷裕則教授にご推薦いただき、責務の重大さにおのきながら熟慮を重ね、2014年から看護学科で教鞭を執ることになりました。いわゆる女性社会に飛び込むにあたり、就任祝賀会では多くの先輩・後輩諸兄から「どうかご無事で!」という意味深な饒の言葉を頂戴しました。看護学科教員・血管外科医という二足の草鞋ゆえ双方に少なからずご迷惑をおかけしたと思いますが、最低限の職責は果たせたと感じています。退任間近となった昨今「よくぞご無事で・・・」と、ねぎらっていただき感謝の念が尽きません。医師として私は「当たり前のことを100%当たり前、120%迅速にやり遂げる」をモットーにしてきました。今後も枯れずに活動したいと思います。医療界の多様化、働き方改革、世界情勢の不安定、予期せぬ天災など人を取り巻く状況は混迷を極めていますが、今後も若い次世代を中心とした愛媛大学医学部および同窓会の発展を願ってやみません。同窓会の皆様、お世話になり本当にありがとうございました。



渡部 祐司 (昭和58年卒・5期生)

(愛媛大学大学院医学系研究科 消化管・腫瘍外科学 教授)

教員生活を振り返って

私は、2009年7月に消化管・腫瘍外科学講座教授として着任して以来13年8ヶ月、教室員や同門の皆様にお恵まれ、大変実りある教員生活を送ることが出来ました。愛媛大学を1983年に卒業後、合計3年間の関連病院での修練と、西ドイツでの2年間の留学以外はすべて愛媛大学医学部および附属病院での勤務でしたので、合計34年間大学でお世話になったこととなります。就任時に私がたてたモットーは、①外科医としての技量を高めること、②和・輪・話の3つの「わ」を大切にすること、③新しいことへの挑戦に努力を厭わないことを掲げて教室運営をしまっていました。スタートして数年は入局者数も少ない状況が続きましたが、最近では入局者数も増加し、学位取得者数も増加しています。退官間際になり、やっと関連病院をはじめ県内外の外科医療に貢献できつつあるのではと思っています。学会は、7つの全国・地方会を開催致しました。また、臨床領域では腹・胸腔鏡やダビンチによるロボット支援手術の普及、そして食道癌手術では縦隔アプローチ手術を早くから導入しました。また、合併症に苦しむ肥満患者への減量手術も早い時期から導入し、肥満外科手術認定施設に認定されています。研究面では実用化例のなかった誘導加熱治療の研究を医理工連携で開始し、ベンチャー会社を設立することができました。上市の過程で色々な困難なことに遭遇しましたが、良い経験ができたと思います。苦しいことも多数ありましたが、悔いのない教員生活を送ることが出来たと思います。

外科という技術を中心とした仕事においてはたゆまないトレーニングが必要です。当院のシミュレーション教育、アニマルラボ、カダバーサージカルセンターといった教育・トレーニング施設を有効利用することで、決して地方の大学であっても遅れをとることはないと感じています。基礎研究では、臨床から発生した疑問を解決するために、同じ医学部にある基礎教室や学外の研究機関とのコラボレーションを行うことが重要であろうと思います。

地方大学の不利な面は多数存在しますが、情報キャッチのアンテナをたて、多くの人や施設との協力関係を築くことができれば決して遅れをとることはなく、地方から最先端の医療や研究の発信は可能であると思います。

愛媛大学愛を持ち続け、更に素晴らしい大学になるよう皆さんに期待しています。

恩師をおたずねします



「うれしい再会」

新井 達潤 (特別会員)

(愛媛大学大学院医学系研究科名誉教授
〈元 麻酔科学教授、現 岡山中央病院〉)

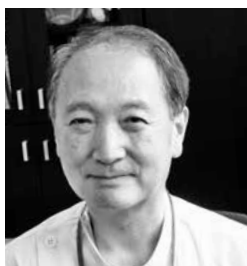
今年8月6日、久しぶりに松山を訪ねた。愛媛大学医学部同窓会の招きで令和4年度の総会後に行われる記念講演会の座長をするためである。同窓会長薬師神教授から依頼を受けたとき嬉しかった。懐かしい方々と会えるという期待と、私が授業をしたことのある、あの時の若者たちがどんなに成長したか、どんなに偉くなったか見たかったからである。

私が愛媛大学医学部へ赴任したのは1976年、私は34歳で、重信ではうねるような砂利の山々に囲まれて附属病院の建設が進行中であった。敷地の西端には林があり、池があり、そのほりに小さな神社(素鷲神社)があった。病院は未だフル稼働に至っておらず、ゆったりした雰囲気があった。しかし、その3年後ふとしたことから、私は突然、スタートしたばかりの麻酔・蘇生学講座のすべての業務を任せられ、すべての責任を負うことになった。そのとき私は37歳で、1期生とは10歳ほどの違いしかなかった。あそこ毎週巡って来る臨床講義のため私は懸命に勉強した。学生にあやふやな知識を伝えることはできないからだ。今から考えてもあの時期ほど勉強をしたことはない。同窓生同様、私もまた愛媛大学で勉強をし、自分を作った。

コロナ禍で、またオンライン参加を可能にしていたため会場出席者は多くはなかったが、懐かしい顔々が出迎えてくれた。残念ながら名前を憶えている方々は数名しかなかったが、それぞれの顔は脳裏に残っていた。皆、私が愛媛大学を退職した年齢になっていて、それぞれの人生を経験し、それぞれの地位につき、ゆったりした良い顔であった。全日本の学会を束ねる理事長もおり、医学部教授もおり、あるいは地域医療の指導者になっていた。誇らしく、うれしかった。

講演1は、コロナ禍の大阪で先頭に立ってその対策にあたっている大阪市立総合医療センター白野倫徳部長(第24期)によるもので、現場で陣頭に立つ者の熱意と、また苦勞が伝わってきた。講演2は、第2の水俣病が疑われた茨城県神栖市のヒ素中毒災害を発見し、究明し、治療に成功した筑波大学の石井一弘助教授(第10期)によるもので、詳細な観察と緻密な考察に裏打ちされた第1級の研究であった。講演者は地方大学から中央に出た者のやりにくさを吐露していたが、一生に一度これだけの仕事ができれば大いなる誇りである。

私は愛媛を退職後岡山に来てから十数年になる。最近では、周りに愛媛大学の出身者も増えてきた。それぞれに活躍していて評価も高い。仲間が周りにいるというのは心強く、うれしい。



「まったく、コロナのやつは」

檜垣 實男 (特別会員)

(愛媛大学大学院医学系研究科名誉教授
〈前 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学教授
現 南松山病院院長〉)

皆さんこんにちは

いま松山市内にある南松山病院というところで院長をしています。小さなころから町の病院の院長先生になるのが夢でした。大学を退職して、休暇も取らずそのまま走り続けています。定年は人生のゴールではなく、折り返し点でした。人生100年時代の残り時間の長さには呆然としています。男というものは社会貢献が生きがいで、働くことは楽しいのだけれど、余生はメチャクチャ長いなあ。病院の同僚やスタッフはみな私より年下で私をいたわってくれるので、幸せに暮らしています。つついといい気になって救急車に添乗もしていますが、受け入れ先病院で愛大出身の医師にお会いすると本当に頼もしくてうれしくなります。これからも医師としての人生を楽しませてもらい、妻を大切に生きてゆきたいと願っています。またどこかで出会ったら声をかけてくださいね。

さて今の私に最大の敵は老化です。先日も病棟でちょっとしたミスをしたので、インシデントレポート書かなくっちゃと落ち込んでいたら、孫のような看護師さんが“先生大丈夫よ、みんなで黙ってあげると言ってくれました(ううん、それはちょっと違うんだけど…)”。

で、この引き際が難しいわけで、若い人を指導したり育てたりする能力も少しは残っているから、急に消えてしまうのも無責任。となると彼らの邪魔にならぬよう、舞台からうまく引いてゆかねば(Fade out)なりません。

私の好きな歌手の武田鉄矢さんは老人のあるべき姿を、若い者のために尽くすこととし、ナウシカ爺さんと呼びました。ナウシカ爺さんというのは風の谷のナウシカというアニメで、なぜか若者が少なく高齢者だけが残った村で、自分の孫のような姫を守って帝国軍と戦う、弱く人の好い爺さんたちです。毎朝児童を交差点で見守っている黄色い旗のおじいさん達こそ理想のナウシカ爺さんの姿であると武田さんは言います。

そもそも私は老年病医学の教室出身者。不老長寿というとなまじい医学とは考えられず馬鹿にされてきた領域ですが、近年の遺伝子医学の進歩によって、老化は克服すべきやまいとまじめに考えられるようになりました。老化制御の魔法の薬を自ら開発できなかったことは私の無念とすべきことですが、それでも臨床医として使用できる時代が来ようとしているのは(治療対象に私が入るといっても含めて)嬉しいことです。この幸せな時代に医師として暮らして行ける喜びを感じながら、後に続く人達にバトンを渡したいと思います。



愛媛大学医学部同窓会会則

- 第1章 総則**
第1条 本会は、愛媛大学医学部同窓会と称する。
第2条 本会は、東温市志津川454、愛媛大学医学部内に置く。
- 第2章 目的**
第3条 本会は、母校の創立精神を尊重し、会員相互の親睦を密にし、学術の向上を図り、母校の発展に積極的に寄与することをもってその目的とする。
- 第3章 事業**
第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(1) 会員名簿、及び会報の発行
(2) その他、本会の目的達成に必要な事項
- 第4章 同窓会会員**
第5条 本会の会員を次の通りとする。
(1) 正会員
愛媛大学医学部医学科を卒業し、かつ会費完納の者
(2) 学生会員
愛媛大学医学部医学科に在学中の者
(3) 特別会員
愛媛大学医学部教員、及び元教員のうち入会を希望する者。但し、正会員を除く。
(4) 準会員
愛媛大学大学院医学系研究科を修了した者のうち入会を希望する者。但し、正会員を除く。
(5) 賛助会員
愛媛大学医学部、及び愛媛大学大学院医学系研究科に縁故のある者で、役員会の承認による。
- 第5章 同窓会役員**
第6条 愛媛大学医学部同窓会に次の役員(計18名)を置く。
会 長 1名(任期は3年、2期6年を超えない。)
副 会 長 2名(会長が指名し、役員会の半数以上の賛成をもって承認する。)
常任幹事 3名
幹 事 10名
監 査 2名
- 第7条 本会の役員は、総会において正会員のうちからこれを選任する。
第8条 役員は、それぞれ次の職務を行う。
(1) 会長は、本会を代表し、いっさいの会務を統括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代行する。
(3) 常任幹事は、常時それぞれの担当会務を処理する。
(4) 幹事は、会務に参画する。
(5) 監査は、会務・資産及び会計の監査に当たる。
第9条 会長以外の役員は任期は1年(4月1日～3月31日)とし再任を妨げない。ただし満70歳定年制を定める(細則に記載)。
2. 補欠により選任された役員は前任者の残任期間とする。
3. 役員は、任期終了においても後任が決まるまでは任務を行うものとする。
- 第6章 会 議**
第10条 本会の会議は、会員総会、役員会(計18名)、及び常任幹事会(会長、副会長、常任幹事、計6名)の3種とする。

- 第11条 総会は、本会の最高決議機関であって会員をもって組織する。
2. 総会は、通常総会及び臨時総会の2種とし、役員会の決定に基づき会長がこれを召集する。
3. 通常総会は、年1回(8月第一週土曜日に)開催し、臨時総会は必要に応じて開催する。
4. 総会の議長は、出席正会員の互選によりその都度選出する。
5. 総会の議事は、出席会員の過半数の同意によりこれを決定し、可否同数の場合は議長がこれを決定する。
6. 次の事項は、総会の議決又は承認を得なければならない。
(1) 役員を選任
(2) 事業報告、及び当該年度の事業計画に関する事項
(3) 予算、決算に関する事項
(4) 会則及び施行細則の変更
(5) その他、役員会が必要と認めた事項
- 第12条 役員会及び常任幹事会は、本会の業務を企画、運営し前条に定めた総会の議決を要する事項を除く一切の事項を議決する。
2. 役員会は第5章第6条の役員(計18名)をもって組織し、常任幹事会は幹事ならびに幹事・監査を除く役員(会長、副会長、常任幹事、計6名)をもって組織する。
3. 役員会及び常任幹事会は、会長がこれを召集する。
4. 役員会及び常任幹事会の議長は、会長がこれにあたり、会議を主宰する。
5. 役員会は、役員会の過半数の出席をもって成立し、議決は出席役員会の過半数の同意を要する。可否同数の場合は、議長(会長)がこれを決定する。
6. 役員会は、次の事項を通常総会において報告しなければならない。
(1) 事業報告、及び当該年度の事業計画に関する事項
(2) 予算、及び決算に関する事項
- 第7章 会 計**
第13条 本会の資産は、次の各号をもって構成し、役員会がこれを管理する。
(1) 会費
(2) 寄付金
(3) その他の収入
本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第14条 **支 部**
第15条 本会は、役員会の承認を得て必要な地域に支部を置くことができる。支部には代表者を置く。支部代表は会長選挙において一票を有す。
- 第9章 雑 則**
第16条 附 則
この会則は、1982年4月1日より施行する。
設立年月日 昭和57年4月1日
2. 1982年12月20日、通常総会において改正
3. 1986年3月29日、通常総会において改正
4. 1991年3月30日、通常総会において改正
5. 1999年5月14日、通常総会において改正
6. 2017年5月19日、通常総会において改正
7. 2018年5月18日、通常総会において改正
8. 2019年8月3日、通常総会において改正
9. 2020年8月1日、通常総会において改正

愛媛大学医学部同窓会会則施行細則

- (目 的)**
第1条 この細則は、愛媛大学医学部同窓会会則に基づき、本会の運営についての細則を定める。
- (会 費)**
第2条 会員は、下記の通り会費を納めるべきものとする。
2. 正会員及び学生会員の会費(入会金を含む終身会費)は5万円と定める。
3. 特別会員、準会員及び賛助会員の会費(入会金を含む終身会費)は2万円とする。
4. 会費納入方法は別途定める。
- (同窓会役員)**
第3条 会長は広く本同窓会の正会員(終身会員)から公募あるいは推薦し、役員会(現会長1、副会長2、常任幹事3、監査2、幹事10)ならびに*同窓会地区代表幹事5で投票を行い、過半数を超えない場合は、上位2名による決選投票の後、過半数を持って選出される。同票の場合は現会長が指名する。会長の任期は3年とし、役員会ならびに同窓会地区代表幹事(半数以上)の承認がある場合のみ2期6年まで勤めることが出来る。副会長2名は会長が指名し、役員会の半数以上の賛成をもって承認する。会長を含む全ての役員は満70歳になった時点で定年とし、会長ならびに副会長以外の役員が退会する場合、本人が後任を推薦し、役員会の半数以上で承認する(仮に否決された場合は再度推薦する)。
*同窓会地区代表幹事とは、九州支部、中国支部、近畿支部、東日本支部、東海支部を指す。今後、全国の支部が幹事会の承認の元に増加した場合、定員5を増加する。

- 第4条 会則第6条に定める役員のうち、副会長、監査、常任幹事の半数以上は学内の会員よりの選出とする。
- (役員会ならびに同窓会総会)**
第5条 会の運営を行う常任幹事会(会長1、副会長2、常任幹事3)は必要時に不定期開催とし、役員会(会長1、副会長2、常任幹事3、監査2、幹事10)は4月ならびに、8月第一週の土曜日(同日同窓会総会を開催)に開催する。常任幹事会ならびに幹事会の決定事項は同窓会総会の承認(過半数)が必要であり、否決された場合は継続審議とする。会議には、会議録を作成し、出席会員2名の署名を要するものとする。
- (会議の運営)**
第6条 本会の会務運営のため、次の各部会を置く。
(1) 庶務部
(2) 企画部
(3) 広報部
(4) 渉外部
2. 各部に部長1名を置き、副会長又は常任幹事のうちから選出する。
3. 各部の管掌する業務は別にこれを定める。
- (事務職員)**
第7条 附 則
本会に事務職員を若干名置く。
この会員施行細則は2020年8月1日から施行する。
この細則に定めていない規定は、役員会においてこれを定める。

愛媛大学医学部同窓会 申し合わせ事項

- 会費納入における申し合わせ**
同窓会正会員費は終身会費5万円と定める。
会費は愛媛大学医学部入学時に一括5万円の納入を原則とするが、諸事情で卒業時まで全額納入する事も容認する。また、退学時要望があれば納入金を返却する。
2018年5月時点の卒業生で終身会員の手続きが未施行(全額納入していない)のものについては、2019年8月1日までに移行期間と定め、この期間に納入を終えない場合、同窓会正会員と原則認めない。
- 名簿等に関する申し合わせ**
1. 在校生にも会報・名簿を配布する。ただし、会費未納の場合は、会報のみ配布する。また名簿にも在校生を記載する。
2. 名簿に掲載する住所は連絡先とし、自宅・勤務先・その他の連絡先かの選択は会員本人の任意とする。また、電話番号・電子メールアドレスに関しても掲載・非掲載は本人の意思によることとする。
3. 2019年8月以後終身会費を納入していない会員*には名簿を配布しない。
*ここでいう「会費を納入していない会員」とは、終身会費を納めていない愛媛大学医学部卒業生を言う。
4. 終身会費未納入者の卒業生には名簿を配布しないことを明記する。
5. 名簿の配布は終身会員に限り、要望があっても終身会員以外には原則配布しない。
6. 卒業生から要望があった場合、次の場合に限り送付する。
(1) 会費を納めていなかった卒業生が終身会員として会費を納めた場合
(2) 住所不明のため名簿が配布出来なかった終身会員である場合
注: 紛失した場合、複数部要望した場合は原則送付しない。

- 同期会についての申し合わせ**
愛媛大学医学部医学科卒業生が同期会を開催するにあたり、次の条件が満たされれば愛媛大学医学部同窓会は5万円の援助を行う。
1. 正会員20人以上集まること。
2. 会の写真と報告文を(集会終了後4週間以内に)同窓会に提出すること(会報原稿用)。
3. 開催予定日事前に同窓会事務局に連絡の上、(集会参加者で)会費未払いの人へ納入のお願いを行うこと。
4. 2年に1回とする。
- 支部に関する申し合わせ**
1. 支部立ち上げ時に限り1支部あたり10万円の援助を行う。
注: 今後、多くの支部が隣接に設立される可能性があるため隣接支部間で十分な協議を行いそのエリアを明確にする必要がある。
- 講演者旅費に関する申し合わせ**
1. 愛媛大学医学部同窓会会員が、同窓会の交流・連絡等の目的で出張する際には、バック料金(往復の旅費とシングル宿泊料金)を同窓会が負担し、何らかの理由でバック料金が使用出来ない場合には、往復旅費と一泊15,000円以内のシングル宿泊料金を同窓会が負担する。また、この金額を超える場合、追加料金は会員自身の負担とする。ただし、特別会員の恩顧を招待する場合はこの限りでは無く、この費用については、同窓会長が判断し、役員会で事後に承諾を得ることを原則とする。

この申し合わせ事項は2022年8月6日から施行する。

50周年に向けて、5期生雄志座談会

●自己紹介

薬師神 5期生の座談会を始めます。まず、順番に自己紹介をお願いします。



若林 若林久男(わかばやしひさお)です。愛媛大学を卒業して、そのまま1年間附属病院で研修をしました。第三内科・太田教授のときです。その後、香川大学へ移りました。大学6年間と卒業後の1年だけが愛媛で、その後は香川大学の外科にいたので、香川県の方が愛媛県よりも長いです。今は、香川県済生会病院の院長と、香川県医師会の副会長、日本医師会の委員もしています。今回、武田先生にお声がけいただいて、初めて同窓会に来ました。ちょうど還暦を過ぎてキャリア的にも出口が見えてくる頃なので、いい機会かと思って、久しぶりに松山を訪れました。たいへん懐かしい、思い出深い場所で喜んでます。

竹本 竹本伸太(たけもとしんた)です。愛媛県の南、城辺町(現在は合併して愛南町)の出身で、そこで開業しています。卒業してからは第一外科に入局して、ちょっと県外の病院にいたこともあります。卒業9年目で開業して今に至っています。

李 えらい簡潔やな、竹本くんは。李俊尚(りとしひさ)です。医学部を卒業してすぐに、旧の第二外科、木村教授のところに入局。南宇和病院、喜多医師会病院に勤務後、大学に帰って、1994年からはずっと市立大洲病院の外科におります。30年弱と、かなり長くなりました。本来ならもうそろそろ定年のはずですが、いつの間にか定年が70歳になっておりまして、まだまだ頑張らないといけないのかなと思っています。



香川県済生会病院
院長 若林 久男

市木 市木裕子(いちきゆうこ)です。旧姓は中務です。兵庫県の姫路の出身です。卒業してから精神科の医局に入って、途中で近畿大学の精神科にも勤めました。平成2年くらいから、久米病院に勤務しています。臨床をやりながら、非常勤というかたちで家庭裁判所や児童相談所、少年鑑別所でのお手伝いをしてきました。自分の子どもも3人にそれぞれ子ができて、娘たちも働いておられますので孫守りを半分くらいしています。残りの半分は仕事です。久米病院では外来だけにしていただいて、最近興味が出てきた精神鑑定に関係する仕事もして、充実した生活を過ごしています。

武田 お久しぶりです、武田定典(たけださだのり)です。大阪柏原市の出身です。卒業したのは皆さんと一緒に、卒業後は脳神経外科の初代教授・松岡先生の下に入りました。榊教授、大西教授と変わるうちに、平成3年からは済生会今治病院にも長い間いました。平成21年に今治で開業し、今は14年目です。

●入学時の印象

薬師神 ありがとうございます。まず、松山や医学部の印象をお聞きます。竹本先生は、田舎というと失礼ですが、愛媛の南端から松山に出てきたときの印象はどうでしたか。



竹本医院
院長 竹本 伸太

竹本 正直なところ、もうちょっと都会に行きたかったというのがあります。住んでみると松山は十分都会でした。愛媛大学に入学したときに医学部を見に行った記憶があります。西側の自衛隊の丘を越えて下りにかかったところで、「もうちょっとしたら医学部が見れるよ」と誰かから言われました。そうしたら遠くに、白い大きな建物が見えて、そのとき「医学部に入れた」という気持ちが湧いてきて、嬉しかったです。そのときの重信町は、田舎と言われる城辺町と田舎具合が同じくらいで、ここも田舎だなんて。今はすごく都会です。松山には知った人もいなくて少し心細かったですが、クラスのみなどと比較的早くなじむこともできたし、ラグビー部に入って、その後はずっとラグビー部を中心の生活をして楽しかったです。

薬師神 武田先生は、逆に都会から来ましたよね。松山と重信の印象はどうですか。

武田 松山の印象はよかったです。僕は、大阪でもちょっと田舎の柏原市っていうところの出身。初めて松山に来たときは、堺市くらいの印象だなんて感じました。自転車でどこでも行けるくらいの規模で、いいところ、住みやすいな、という感想を持ちました。

薬師神 市木先生は兵庫出身ですが、松山と比べて都会でしょうか。



市立大洲病院
医局長 兼 外科部長
李 俊尚

市木 姫路という、そんなに都会というわけではないですが、(薬師神：松山と同じくらいですか?)いや、そんなことはないですよ！ちょっと足を延ばせば、神戸や、大阪・京都にも遊びに行けますので。さっき竹本先生と座談会前に話してたんですが、最初にJR松山駅で降りたときに信号が見えなかったんですよ。「四国は信号がないんだ」って先輩が私を騙して、でも「そうなんだあ」ってすごく感動したんです。でも、市駅の方をみると普通に街だったので、「ああ、騙されたんだ」って気づきました(笑)。

薬師神 当時は、松山の文京キャンパスで受ける教養課程と、重信キャンパスでの専門課程の間で引っ越す学生が多くいました。今の学生は初めから重信に住んでいます。当時皆さんも引っ越されましたか。

市木 引っ越しました。引っ越した頃って、みんな、週末はすぐ松山に行かれてなかったですか？週末ごとに、ほとんどの学生が松山に行かれていたように感じました。重信には遊ぶ場所がなかったです。住んでるアパートにガス屋のおじちゃん came とき「ここは冬になると石鎚山からの風が落ちてくるから、温かくしないといけないよ」って言うてくれたことを覚えています。することもないから、勉強するしかないな、と思っていました。

薬師神 李先生は広島ですが、変わらないですか。

李 僕は、広島を中心地のシティーボーイだったので(みんな笑う)、多少広島に比べたら半分くらいの規模の街だなと思いました。僕はどっちかという、素朴な性格ですので、すぐなじみましたね。武田先生が言われてましたが、本当に自転車でもどこでも行ける街。教養時代の2年間は、道後に住んでいて自転車であちこち行きました。

●大学時代の思い出

薬師神 入学してからの話もお聞きしたいのですが、若林先生はクラブ活動などされましたか。

若林 教養課程のときには、音楽をやっていました。あとラグビー部にも入っていて、竹本先生とその頃からの付き合いになります。文京キャンパスと重信キャンパスを行き来し始めると、横河原の駅を使います。その駅長さんが「おはようございました」って過去形でいつも言うんです。その当時は、何とも返せず、すごく刺激的な光景で、松山だなんて感じた記憶があります。学生ときは李先生と同じアパートで、夜な夜な広島カープの試合を見て応援していました。



医療法人敬愛会 久米病院
精神科 心療内科
市木 裕子

李 そう、僕らは3年生以後北久米町のアパートに住んでいたの、両方のキャンパスの中間的位置。2年生くらいから自動車を買う学生もいて、僕らも持っていたのでそこから車で松山にも医学部にも行ってました。その後、5年生で医学部本学のすぐ隣のアパートに引っ越しました。

薬師神 市木先生は学生時代の思い出は何かありますか。

市木 そうですね、私たちの学年は女子が5人。ただ女子5人が集まると、それだけで十分遊べました。男子学生とそんなに一緒に遊ぶこともなかったです。専門課程になって解剖実習などが始まると、自然と一緒に遊んでいただけようになって、楽しかったなと思います。実習ではグループになるので、その中で一緒にご飯を食べたり、遊びに行ったりとか誘っていただけることが多くなりましたね。

薬師神 当時よく行ったお店とかはありましたか。

市木 私は行ったことがないんですけど、男子学生たちは「ラッキー」というバスのラーメン屋さんによく行っていたのを覚えています。当時は、お店の中でいろんなものを見せてもらえるという話がありました。それで、まだそんなに世慣れていない男子学生の方たちが「あそこに行ったらこんなものを見せてもらえる」とかいろいろ噂になって。私は行ったことがなかったので「一体、その中で何が起きているんだろう」って思っていました。今もあるんでしょうかね。

●本学の授業

薬師神 まだありますよ。電気もついてましたし、まだ続いているんじゃないでしょうか。授業や名物教授の思い出も聞いてみたいです。

若林 本当に、名物教授だらけでした。僕らが入学した頃はまだ初代学長とか初代教授ばかりで、思い返してみると、たいへん偉い先生が多くいらっしゃいました。あちこちの大学から集まってくれたので、著名な先生も多かった。ただのおおさんだと思っていた人が、たいへん偉い先生ということもしょっちゅうでした。医学部の学生は、みんなそうだと思いますけども、解剖学のあたりから、ようやく医学部の学生になったという自覚が生まれたと思います。高嶋先生(初代解剖学教授)の紙漉りを通しながら「この神経は…」なんて授業もよく覚えています。



武田脳神経外科
院長 武田 定典

薬師神 解剖実習の記憶はありますか。

武田 私は解剖をやり始めたくらいに胃潰瘍か何かになりました。ホルマリンの臭いが原因だ

と思います。第三内科を受診し、バリウムを飲まされ、薬も処方してもらいました。そういう経緯を富永先生(旧解剖学講師)にも伝えたら、ちょっと優しくなりました(笑)。何もしなくても許してもらえて、口頭試問でも割と優遇してもらえたということを感じています。

薬師神) 竹本先生はどうでしょうか。

竹本) その、武田先生がさぼって…さぼられた残りのグループ員でした。武田先生は、その割には、ちゃんとポイントを突いていて優秀だったので羨ましかったです。

●大学時代の恩師

薬師神) 昔の恩師の話も聞きたいですね。

李) 僕は第二外科の卒業試験が木村教授(旧第二外科教授)でした。当時は、各科とも教授による口頭試問があってグループで受けるものだったんですが、6人グループのうち、3人が、木村教授の第二外科に入局することが決まっていた。木村教授は厳しい方で、口頭試問も厳しいと評判。僕らの口頭試問のときは入局予定者が多かったので教授の機嫌がとてよくて和やかでした。ちなみに、その3人は、僕とあと一人は渡部祐司先生(現消化器腫瘍外科教授)、もう一人は後に第二外科の医局長を務めた山本哲也先生。みんな仲が良かったのですが、残念ながら山本先生は糖尿病が悪化して亡くなられましたね。10年以上前かな。もちろん、みんな結構勉強をしていたので、適切に答えられたということもあるのですが、非常に明るい雰囲気口頭試問が終わったのを覚えています。

薬師神) もう亡くなられましたが、太田先生(旧第三内科教授)の思い出はありますか。

若林) 太田先生には、本当にたくさんの思い出があります。卒業後の一年間の面倒を見てもらった先生で、学者肌で、偉い先生。特に肝臓の病理が得意な先生でした。第三内科の教授回診のときは、顕微鏡を使って組織図を出して、廊下の白い壁に映して主治医の先生が説明していました。僕がよく覚えているのは、患者さんが入院してくると、検血と検尿は必ず主治医が検査するんです。顕微鏡で白血球を数えるので、面倒くさい。患者さんも、一日に3人も4人も入ってくると、検血だけでも面倒くさい。一時私はほとんどさぼっていました。あるとき尿の検査をしてみたら、妙な細胞がたくさん出ました。当時はHE染色も、病棟の中でちゃんとできるような道具がそろっていたので、自分で染色をしてみると形質細胞がたくさん出ており、腎臓の形質細胞腫でした。その診断で太田先生に褒められたのがすごく嬉しかったです。同時に、診断の基本を大事にしないとイケない、ということも改めて思ったのを覚えています。

薬師神) 精神科の柿本先生(初代精神科教授)もまだご健在ですね。

市木) 私たちの時代、女性医師は募集しない雰囲気のある科もありました。精神科はそういう空気がありませんでした。自分自身も入局して結婚したり子どもを産んだりすることが、医者としてプラスになるとしたら精神科と考えて決めました。柿本先生も自由な感じのお人柄でした。あとは社会医学実習で金澤先生(当時の精神科助教授)にお世話になりました。金澤先生は鑑定などの社会精神医学的なこともしておられて、金澤先生が医学の中ではお父さんみたいで、柿本先生はもう少し仰ぎ見るような存在でした。現在、柿本先生は我が家に近い場所にいらっしゃるので、先日ハウスみかんを持って、お会いしました。お元気でした。

薬師神) 竹本先生は、第一外科に恩師のような先生はいらっしゃいましたか。

竹本) 恒川教授(旧第一外科教授)です。恒川先生は自主性を重んじられる方で、木村先生(旧第二外科教授)とは逆のタイプのように感じました。私の外勤先の病院に問診に来られた時、一人一人聴診をされていました。後で私に「こうやってね、聴診器をつかってちゃんと診てあげると、患者さんは喜ぶんだよ」とおっしゃられました。自分も開業してからは、聴診器はどんな患者さんでもなるべくあてるようにしています。手術とか技術よりも患者さんに対する姿勢を学びました。恒川先生のお人柄にも触れることができたのは良かったです。

薬師神) 旧の第一外科と第二外科は全然タイプが違いましたよね。李先生はどうして第二外科だったのですか。

李) 第二外科には同級生8人が入りました。第二外科には当時、消化器、心臓、呼吸器、小児外科部門が網羅されており、general surgeonとして一人前の外科医になるには第二外科に入らねばならない、という肌感覚がありました。実際に厳しかったです。まず、旧第二外科の木村教授は喜怒哀楽をはっきり表現されるので、怒られると本当に怖かったです。附属病院にいる間に一例だけ肝切除の手術の執刀医をした際に、木村教授に前立ちをしていただいたんです。それは本当に、ものすごく感激しました。もともと小児外科から、一般消化器外科に来られて胆道閉鎖などがご専門ということもあって、非常に丁寧に教えていただきました。また、ご自宅の広い庭に多くのバラが植えられており、毎年、バラが咲く5月頃に「バラパーティー」と称して多数の医局員を招待していただき、綺麗なバラを鑑賞しながら、御馳走をふるまっていたことも記憶に残っています。



学部長 柿本 泰男先生

卒業おめでとう
君達が医師として医学者として優れた人間に成長することは国民に対する義務であり、恩返しである。君達が意味ある存在となる得るか否かは、これからの厳しい試験にいかにか耐え抜くかによって決定される。これから勉強と仕事が始まるのだ。世界の医学の中に、わが国の医療の発展の中に、自らの明確な足跡を印すのはわが医学部の卒業生に課せられた義務と考えられたい。
○ 任は徹底的に働け、夜は読み書きに親しみ、全エネルギーを仕事に投入せよ。
○ 全心を奪われるな。富に至る学問の道は貧しい。
○ 友をこよなく愛し、先輩を敬い、患者にはあらゆる努力と犠牲を惜しむな。
○ 権威に盲従せず、自由な批判精神を持ち、あくまで探究心に富む心に真理は開示される。
医学部長 柿本 泰男

薬師神)私も学生の頃、木村先生のオベに入るのは怖かったですね。脳外科はいかがでしたか。

武田)教授としてこの人と思ったのは、小林先生(旧第一内科教授)です。野球部の顧問もされていたので、打ち上げとかで一緒に飲む機会もあり、なぜか小林先生の前の席に座ることが多くいろいろな話をさせていただきました。一番覚えているのは「若いうちは、しっかりやりなさい、50歳を超えたら成層圏だよ」と言われていたのを覚えています。小林先生はあまり怒るということではなくて、基本的に野球部でもいつもニコニコしていて、難しいこともおっしゃらず、僕らの話を聞いてくれる、そんな方でした。卒業してからは、初代の脳外科教授だった松岡先生にお世話になりました。松岡先生とは出身高校が一緒です。大阪の高津高校。国府先生(旧第二内科教授)もそこのご出身で、のちに熊本大学の教授になられた湯本先生も同じ。愛媛高津会というのがあって入局前からそのお三人は存じ上げていました。松岡先生(初代脳神経外科教授)もぜんぜん怖くなくて、イライラし怒ることのない先生でした。あと、上原先生(初代組織学教授)にもお世話になりました。論文発表の主査ということが分かっていたながら、前もって発表させていただきました。「後はこれとこれを勉強しなさい」「これは、こういうことだから、これはこうしたらいい」と具体的に指示をいただきました。ところが、論文発表の最後に上原先生が「今度これはどうするつもりなんだ」と。教えてもらった通りの質問で、逆に言ってよいのかどうか、言い淀んでいたなら「うんうん、分かっているんだね」と言って通してくれました。

●大学への要望

薬師神)昔はいい時代でしたね。昔のような名物教授はいないですからね。そろそろ、教訓じみた話をお聞きしたいんですが、大学に何か要望することはありますか。

若林)同じ四国の中で、香川・愛媛・高知・徳島とそれぞれ特色があって、それぞれの分野で業績をだしていると思います。研修医のマッチングプログラムでも、どのくらいマッチングしてどのくらい学生が残っているかということも、いつも愛媛大学の数値も見せてもらっていて、香川大学より多い・少ないというような話をしながら、愛媛大学がどう頑張っているかとずっと気にしています。四国の中では、総合大学で医学部を標榜した愛媛大学には、高知、香川よりも大学としての重みをつけていただかないと思っています。どの地方大学もそうですが、卒業生が残らない、医師不足、診療の偏在といった問題があります。香川大学も同じように苦しいですけども、愛媛大学を外から見させてもらって、もうひと頑張りしてほしいなあってずっとと思っています。

薬師神)来年50周年ですからね。南宇和地域にいらっしゃる竹本先生はどうですか。

竹本)そうですね、僕が開業したときには、南宇和病院もちょっと規模を大きくして移転オープンしました。そのときは各科に愛媛大学からたくさんの先生が来ました。その後は大学からの派遣が少なくなって、今では大学から直接来られているのは、昔からいた先生がちょっといらっしゃるだけです。新しく来られている先生は県立中央病院系列で、しかも交代勤務なので、なんとなく愛媛大学の元気がなくなってきたのかなと感じています。もう少し頑張ってくださいたらというのはあります。

薬師神)南宇和から高知の県境にかけては本当にいま、医療過疎のところですね。

竹本)全体的な医師不足であり、いろいろな都合もあると思いますが、過疎地が愛されていないように感じます。

薬師神)大洲地区も中堅どころの病院がたくさんありますがどうでしょうか。

李)外科に関していうと、大洲中央病院と大洲喜多医師会病院、市立大洲病院の3つあります。実質、手術しているのは市立大洲病院だと思います。大洲中央病院はほぼ救急だけに特化し、喜多医師会病院は常勤が2人いましたが、今年から1人になったので緊急手術は受け入れられなくなりました。うちの病院は、僕ともう1人の外科医2人でしていますが、週に2件の定期全麻手術、主に胆石や腹腔鏡下单径ヘルニア手術などですが、できるだけ緊急手術にも対応しています。以前に比べると、消化器癌などのメジャーな手術は松山方面の病院に行ってしまうので、月に1~2件に減っています。外科のユニットとしては最低3~4人いないと本来の仕事は無理かと思いますが、2人でなんとか対応しています。

薬師神)外科も入局者が少ないですよ。

李)10年前は、外科は絶滅危惧種と言われていました。私の出身医局の渡部教授とか、旧第一外科(肝胆膵外科)の高田教授の御尽力で、この何年間でまあまあ増えてきているのではないかと思います。一緒に働いているもう1人の先生も、2年前から消化器腫瘍外科医局から派遣で来てくれています。非常に優秀な先生で助かっています。また、麻酔科の常勤医として、1期生の新田先生が頑張っておられるので本当に有難いです。

薬師神)松山にいらっしゃる市木先生は大学に関しての要望はありますか。

市木)去年の先生方の発言にもありましたが、医学部や附属病院に女性がだんだん多くなってきています。私の末っ子の結婚相手は愛大出身の女医さんなので、私の後輩にあたります。そういうこともあって、愛媛大学を出た女性のお医者さんたちが活躍できるように環境を整えていただきたいと思います。私たちのときは保育所なんてなかったですし、育休があっても実質取れませんでした。大学病院ではそもそも子どもを産むことに無理があるので、外の民間病院に出てから子どもは産むみたいな時代でした。そうしないと、とっても迷惑をかけてしまうという雰囲気がありました。女性が働きやすい場所というのは男性にとっても働きやすい場になると思っておりますので、どうか女性の先生方が活躍できるようにしていただければと思っています。



薬師神)なるほど、女性医師の立場からの要望をいただきました。武田先生は何かありますか。

武田)大学から卒業生への発信が弱いように思います。大学が今どうなっているかを自分から情報を取りに行かないと分からない。特にコロナ禍になってからは、情報交換の機会がなくなりました。会うだけで得られていた情報がほとんどなくなっています。例えば医学部創立50周年記念のアンケートを実施したことも、どれだけの卒業生が知っているのだろうと思います。竹本先生や李先生が訴えていた人不足に関してだと、そもそも大学に人が居ないということが原因だと思います。卒業生に限らず、人を集める魅力的な教室作りもしてほしいです。

●在校生や若い先生方に贈る言葉

薬師神)そろそろまとめにはいります。最後は、今の学生や若い先生たちに贈る言葉を順番に伺います。

若林)今、医師の働き方改革が言われ、僕も香川県で音頭を取っています。院長として済生会病院でも話をしないといけません。考えてみると、僕らの時代の働き方と、今の若い世代の働き方は全く違うことに行き着きます。僕らの方は、特に外科の先生はそうなんですが、背中を見て覚えるという教育の雰囲気がありました。事細かく教えてもらおうということではなくて、教えてもらう側がしっかり努力をして学ぶという感じでした。それに伴って、医師の重労働というのも普通で、夜中に呼ばれて病院に行って患者さんが亡くなって、また呼ばれて診療にあたって、というのは日常でした。今頃は「時間外手当では出るんですか」になります。ずいぶん、価値観が変わってきました。でも、医師の原点というのは、そういうところではないという思いがずっとあります。特に若い頃、さっき言ったように夜中も普通に大学に呼ばれてまた帰ってということをやっているときに、ケネディ大統領のスピーチライターだったセオドア・C・ソレンセンという人の言葉に出会いました。「自分の心に恥じないということだけが、私たちに与えられる唯一の勲章である」という言葉です。誰のために仕事をしているのか？重労働を厭わず働くことは、人に褒められずとも自分にとっての一つの勲章であるという、そういう言葉です。その言葉に若い頃に巡り合って、医師の働き方ってそうだよなってずっと思っています。医師の働き方改革を推進する立場ですが、どこかで「いやあ、そうなのかな」という気持ちもあります。

薬師神)「自分の心に恥じない」というのは素晴らしい考えですね。竹本先生はいかがでしょう。

竹本)そのときそのとき、与えられたことを誠実にこなして行ってほしいなと思います。学生時代から、すごく情熱をもって頑張れる人もいるけど、そこまで頑張れない人もいます。医師になって働き出したら、必要とされる知識やスキル、そういうものが分かってきます。学ぶべきときに、学ぶべきことを学ぶことができれば、私はそれでいいと思います。また必死で働いていると、頑張っていないように見える人に対して厳しくあたってしまうことがあります。「自分がこんな風に頑張っているのに、どうしてあなたは頑張れないんだ」と。人を責める気持ちをもつ自分は嫌です。自分はまだまだだからという謙虚な気持ちでいるというか、どう言えばいいか難しいですが、あまり頑張りすぎずに、周りの人を批判せずに生きる方が自分の心の安静が保てると思います。いつまでも若くはありません。健康に気をつけて下さい。

薬師神)ああ、やっぱり恒川先生(旧第一外科教授)のお教えですね。李先生はどうでしょう。

李)僕の勤める市立大洲病院には研修医がいません。だから、若い先生たちと接することもほとんどありません。不定期に、年に何回か、1カ月単位とかでは松山の病院から研修医の先生が来られます。そういう時に感じるのは、やっぱり僕らのときは働く雰囲気が違うということです。時間通りに来て定時で帰る、それが当たり前みたいになっています。若林先生のおっしゃるように、僕らとは明らかに世代が違います。それに対して、もう65歳にもなったドクターから、若い先生に対してうまいこともなかなか言えないですし、自分の仕事ぶりを見てもらってなにか学んでもらおうと思っても、実際そのような機会はほとんどないです。もっとも、僕らが言っても、今の先生には「何言ってるんだ、このおっさん」という感じに思われるだろうなって気持ちもあります。それでも取えて、若い先生たちに言えることは、人生はこれからどんどん長くなって、僕らでさえ90歳とか100歳まで生きる世代になって、定年は60歳から70歳になりました。これからの人は何歳まで働くのかがわかりません。言えるのはただ一つ、体力勝負です。40歳、50歳を過ぎると体力がないと仕事ができません。もう一つは知的な頭を使う趣味と、身体を使う趣味をそれぞれ一生のうちにつけるといいと思います。

薬師神)市木先生はいかがですか。

市木)皆さんの話を聞いていると厳しい意見もありますね。たしかに私が勤めている久米病院にも研修医の先生はいらっしゃいます。この4~5年くらいでしょうか、確かにやることをやったら、医局でのんびりされている先生も見かけるようになりました。それまでの先生は、仕事が終わっても病棟に居られて患者さんと一緒に遊んだりとか、患者さんと一緒にお風呂に行ってくれたりとか、ちょっと買い物に行ってくれたりとかしてくださっていたんですが、そういう方がだんだん少なくなってきました。医者になって仕事を始めると、毎日本当に大変なことに直面します。精神科としては「明日のことは思い煩うな、1日の苦労は1日にて足れり(新約聖書「マタイによる福音書」)」ということで、皆さん頑張りましょうね」とエールを贈りたいです。

薬師神)お母さんの一言ですね。最後、武田先生、お願いします。

武田)何年前、医学部の野球部の部誌に「一緒に仕事をしよう」というようなタイトルで、卒業する学生さんたちへ向けてメッセージを書きました。女子と男子に差をつけて入学させるなどの問題があったときです。そのあたりのことも書いて、今いる方たちはそういう時代を潜り抜けた人たちだと思うので、これからもしっかりやっていきましょうと書いた覚えがあります。若林先生も言われましたが、私たちにとっては普通のことを普通にしてきたつもりです。私たちの先輩も、普通のこととしてやってこられたと思います。若い間はいろいろなことがあって、眠れない日もあったり、深夜でも早朝でも何回も呼ばれたりすることがあります。でも、ファースト・コールを受けられるのは若い間だけ。ある程度年数が経つと、ファースト・コールは受けられなくなります。それは、偉くなるからかもしれないし、次の世代にバトンタッチしたからかもしれない。何かの縁で一緒に仕事することになり、その

中で若手であれば最初だけでも頑張っしてほしいです。多少無理してでも、基礎からしっかりと勉強して、やれることをしてほしいと思います。小林先生(旧第一内科教授)の「若いときは無理してでもやるんや、とりあえずやる、やっているうちに成層圏に達する」という思いは私もあります。私の息子と、竹本先生のところの息子さんがちょうど一緒に研修をしました。自分たちのころと比べて研修医でも優遇されています。その後、息子は大学に戻り脳外科の診療にも携わっています。相当しんどいって言っています。重篤な症例を診ることが多く、回復に向かわない患者さんもいて、精神的に堪えると。しかし、大学病院というのはそういう場所。大学の先生方はみんなそれを乗り越えてやっています。若い先生方には、精神的にタフになってほしいし、患者さんを診る目もタフになってほしい。若くてやれるはずだから、頑張ってくれと願っています。

薬師神)皆さん、いろいろと示唆に富むお言葉をありがとうございました。これで、2022年度の座談会を終わります。



国立大学法人愛媛大学医学部創立50周年記念ご寄附のお願い

謹啓、同窓会の皆様方にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

愛媛大学医学部は、設置が昭和48年(1973年)。11月に第一回医学部入学式及び開学式が行われて以降、令和5年(2024年)に医学部創立50周年を迎えるところとなりました。既に卒業生は5,000人を越え、後に開設された看護学科を合わせると6,000人を超える卒業生を世に送り出して参りました。この50周年の節目に、令和5年の秋、医学部創立50周年を記念した事業、式典、講演会、及び祝賀会を盛大に挙げる運びとなりました。今回の同窓会誌にもその寄附趣意書を同封させて頂いております。

今回の寄附を通じ、同窓会としましては50周年の節目にふさわしい「後世に残る50周年記念建造物の築造」事業を考えております。

今回医学部がおこなう募金の目標額は1億円。5,000人の同窓生が2万円のご寄附を頂けますと可能です。しかしながら、住所が特定出来ない先生方、残念ながら賛同を頂けない先生方もいらっしゃいます。本事業になにとぞ御賛同いただき、お一人5万円以上のご寄附を頂ければ幸甚に存じます。皆様の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹言

令和4年11月吉日

愛媛大学医学部同窓会長 薬師神 芳 洋
 副会長 羽 藤 直 人
 副会長 武 田 定 典
 愛媛大学医学部同窓会会報 ● 13



地域医療を守るために頑張っています

岡田 眞一 (昭和54年卒・1期生)
(済生会西条病院 院長)

済生会西条病院に勤務する岡田眞一です。私は愛媛大学医学部を1979年(昭和54年)に卒業した1期生です。卒業後、愛媛大学の大学院医学研究科に進学、同時に第3内科学講座に入局しました。当時、大学院卒業後は大学で研究をするようにと、教授から言われておりましたが、その頃からすでに医師不足で、1983年に卒業後は急遽、現在勤務する済生会西条病院に派遣されました。短期間の予定でしたが、その後現在まで他の医療機関に異動することもなく39年間勤務しております。今では考えられないことです。そして、平成19年から病院長を拝命いたしております。

同期を含めて後輩は、多くの病院を回りながら研鑽をして活躍していますが、私はずっと同じ病院で診療を行っています。数年間でも地域の病院に勤務して診療を行うと地域医療に当たります。同じ地域医療ですが、地域に根差したものではないと思います。私の外来に来られている患者さんは30年以上来られている患者さんも多くおられます。専門医療も大事ですが、地域に密着した医療を行えることは良かったと思っています。医療を通じて地域に貢献できていると自負しております。

愛媛大学は各県1校の医学部をとの国の方針で作られ、私達1期生は11月入学となりました。そのため実質5年半しか大学生活はありません。先輩もいなく情報が乏しい時代、自分でいろいろ工夫して、卒業試験や医師国家試験も講義と自主勉強で何とか乗り越えてきました。1期生は、人に頼らない独創的な考えや活動ができる者が多かった気がします。

愛媛県に医学部がない時代、愛媛の医療は他県の医学部を卒業した先輩達が担っておりました。愛媛大学医学部が出来てから、今は多くの卒業生を輩出しています。多くの卒業生がいるはずなのに地方では医師不足が続いています。また、臨床研修医制度が始まり、各病院の医師不足は著明となっています。私達1期生も、67歳以上の年齢となりました。愛媛の医療を守るために頑張ってきましたが、定年制による制度上の問題と寄る年波には勝てず、もう積極的に活躍できる状態ではなくなっています。これから卒業するみなさんや研修医として活躍されている皆さんが地元に残って、これからの愛媛県の医療を支えるものと期待しています。当院は、協力型臨床研修病院として多くの研修医の受け入れを行っております。今後、基幹型臨床研修病院を目指していますので、卒業後の研修病院として選択していただければと思います。

2年半前から出てきた新型コロナウイルス感染症は愛媛県の医療レベルを表すものとなりました。県内のコロナ感染症に対して、愛媛大学病院が中心となりオール愛媛で治療が行われています。愛媛大学での重症患者の受け入れがなければ、愛媛のコロナ感染症に対する治療は大変なことになっていたと思います。愛媛大学病院の医療で多くの患者さんが助かっていることは素晴らしいことです。



— 地域医療で奮闘 —

住元 巧 (昭和55年卒・2期生)
(喜多医師会病院 院長)

2期生の住元巧です。現在、喜多医師会病院の院長(循環器内科)をしています。“活躍する卒業生”というタイトルでの依頼でしたが、“定年時期を過ぎても地域で奮闘している卒業生”としたいと思います。

私は1980年の卒業後に当時の第二内科(故国府達郎教室)に入局しました。翌年に愛媛県立中央病院に救急救命センターが開設されたと同時に救急救命センターの1期生として赴任し、臨床の最前線でまさに戦う日々を送りました。その後、大学にて臨床・研究・教育に約10年間携わり、研究に対する姿勢や論文作成を学ばせていただきました(二代目日和田邦男教授)。これらの期間がその後の医師人生の礎になっているのは間違いありません。

国府教授が院長をされていた公立学校共済組合近畿中央病院を経た後、1997年より喜多医師会病院に赴任し、現在に至っています。喜多医師会病院は1983年に開設され地域医療を支援する病院(1999年には四国で2番目の地域医療支援病院に認可)として病診連携による一貫した質の高い医療の提供を目指して来ました。赴任した当時は多くの診療科を有し、多くの医師が勤務するこの地域では最大の中核病院でしたが、2004年度の新臨床研修制度の施行で医師が減少したために、分院の内山病院を閉院し喜多医師会病院と統合せざるを得ず、地域病院が抱える医師不足、看護師不足をわが病院もくぐりぬけて来ました。

何より衝撃的だった出来事は記憶に新しい西日本豪雨です。2018年7月に旧病院の老朽化に伴い、現在の病院に新築移転したのですが、その落成式の前日に西日本豪雨による肱川氾濫で大洲平野は海のようになり、新病院は浸水被害に遭いました。開院は延期と誰もが疑いませんでしたが、職員一丸となって復旧に努め、予定通りの開院にこぎつけたのは多くの力と気持ちのなせる業と感激いたしました。余談ですがNHKの全国ニュースで私への取材が何度も流れたものですから全国の知り合いから心配の問い合わせがありました。有難いことです。

当院の循環器内科は伝統的にリサーチマインドが高く、国内および国際学会で成果を発表し論文文化して来ました。当院にこれまでに在職した医師の多くが愛媛県の主要な病院で活躍しています。現在、当地域は当院を含めた5病院がそれぞれの特徴を生かし地域医療を担ってはいますが、医師不足のために松山地域を中心にした圏外の病院に掛からざるを得ません。今後の更なる人口減少と高齢化に備え、地域医療提供体制の整備が喫緊の問題であります。地域枠医師対策も医師不足の解決には時間がかかり、これからも奮闘が続きそうです。患者のために責任を持って仕事出来る喜びを大きなやりがいと感じながら、まだしばらく地域医療に貢献できればと思っています。

縁もゆかりも無かった大洲市ですが、大洲市に市制がひかれたのは1954年9月1日、その日はまさに私がこの世に生を受けた日でもあります。生まれたその日から大洲市と繋がっていたのかもしれないです。

第38回愛媛大学医学部同窓会総会を開催しました

2022年8月6日16時より、松山市・リ
ジェール松山ゴールドホールにて、第38回
愛媛大学医学部同窓会総会を開催しました。

- # 1. 2021年度会計決算報告と
2022年度予算の承認
- # 2. 同窓会一年間の活動報告
- # 3. 今後の同窓会総会のあり方
- # 4. 創立50周年記念(2023年)
方向性の検討
(50周年記念アンケート結果の報告)
- # 5. その他審議事項

に引き続き、特別講演(下記# 1、# 2)
を開催。

座長 新井 達潤先生(特別会員)
愛媛大学医学部名誉教授(元麻酔科学講座教授、現岡山中央病院)

- # 1. 白野 倫徳先生(愛媛大学医学部24期生)
大阪市立総合医療センター 感染症内科 部長
演題 「医療がひっ迫した大阪での経験から～ポストコロナの時代に向けて～」
- # 2. 石井 一弘先生(愛媛大学医学部10期生)
筑波大学 医学医療系(臨床医学系 神経内科)准教授
演題 「茨城県神栖市で発生したジフェニルアルシン酸中毒について」

毎年8月第1土曜日、同窓会総会を開催します。2023年8月5日(土曜日)もどうか皆様ご参加下さい。各学年(期)同窓会との同日開始もお考え下さい。



医学部課外活動(文化部)紹介

愛媛大学医学部 写真部

代表 佐々木 有未(医学科4年)

初めまして。愛媛大学医学部写真部です。写真部は現在8人の部員で構成されています。カメラ初心者からカメラ歴が長い部員まで様々ですが、皆写真を撮るのが好きな部員が集まっております。ここ二年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響で全く活動が出来ていませんでしたが、今年から部を一新して様々な取り組みを行っています。一つ目は医学部研究棟にあるコンコースでの写真展示です。全紙サイズという大きなサイズをプリントして展示し、医学部の玄関であるコンコースにて期間限定で写真展示会を行いました。愛媛や四国の四季や風景写真を主に展示し、皆様に四国の素晴らしさ、また写真の面白さを伝える良いきっかけになったかと思います。反響がとても大きく、多くの方から「またやってほしい」「図書館への道が明るくなった」「写真から元気をもらえた」などのお褒めの言葉を頂きました。10月からまた秋冬写真の展示も行いますので、お時間がありましたら足を運んで下さると嬉しいです。またもう一つの取り組みとして、愛媛大学医学部附属病院の1号館と2号館の渡り廊下にて写真展示を開始しました。これは写真部の「誰かの心が安らぐような瞬間を提供したい」という理念に基づいて行った取り組みで、患者さんの少しでも癒しになるようにと病院側に提案したものです。立案から写真選定まで企画書を制作し行い、無事に病院側から医療サービスとして受理されたものになり、どなたでも見ることの出来る展示スペースになっております。四季折々の写真を季節ごとに変え、写真部の部員の一押しの写真を飾らせて頂いております。こちら患者さんや医療従事者の方、医療スタッフの方などからたくさんのメッセージをいただき、「写真の力」を毎日実感しております。まだ歴史が浅い部活ですが、これからも活動を頑張っていきたいと思っております。OB、OG様のご支援、ご声援いただけたら嬉しく思います。今後とも宜しくお願い致します。



愛媛大学医学部 吹奏楽部

代表 礪田 真由香(医学科3年)

こんにちは。愛媛大学医学部吹奏楽部です。

私たちは、現役生27名、卒業生14名の総勢41名で活動しています。2020-2021年は、思うように新歓活動ができず、部員の人数が減少しておりました。しかし、2022年は、新歓ライブや対面での新歓活動を行うことができ、16名の新人部員を迎え、さらに活気づいたように感じます。通常は週2回コミュニティハウスで活動し、新歓ライブや医学祭、サマーコンサート、定期演奏会など、様々なイベントに向けて、日々練習しています。初心者の部員も多く、経験者の部員が指導して、パート内での基礎練習を重点的に行なっています。初心者の部員の成長スピードがとても速く、経験者も良い刺激となっており、お互いに成長できています。

コロナ禍となってからは、部室内で気軽に合奏することが難しく、体育館をお借りして合奏を行なっています。限られた環境の中ではありますが、徐々にお客さんの前で演奏できるようになってきました。このコロナ禍で、当たり前のことへの感謝を身に沁みて感じました。一回一回のイベントでの演奏機会を大切に、素敵な演奏を披露できるように、日々練習に励み、演奏技術を向上させていきたいと思っております。

さて、私たち吹奏楽部は、創部11年目と歴史が浅く、部で所有している楽器も少ない状態が続いています。現在は東温市内の中学校の吹奏楽部さんから楽器をお借りすることで、なんとか活動することができているという状況です。もし、卒業生の方々に、使用していない管楽器や打楽器などをお譲りしていただける方がいらっしゃいましたら、お声がけくださるとありがたいです。

これからも、部員一同、楽しんで演奏し、先輩方が作り上げてきてくださったものを受け継ぎ、さらに演奏の機会を増やしていきたいと思っております。



医学部課外活動(文化部)紹介

愛媛大学医学部 室内合奏団

代表 新西 礼岳 (医学科3年)

こんにちは。愛媛大学医学部室内合奏団です。私たちは現在ヴァイオリン14名、ヴィオラ4名、チェロ6名、コントラバス2名の計26名で、コミュニティハウス2階の部室にて毎週水・金の週2回活動しています。

一昨年は定期演奏会をはじめとした例年行っている各行事の中止、昨年は計半年ほどの活動休止など、ここ数年は新型コロナウイルスの流行に振り回される日々でした。しかし今年度は、医学祭の中止こそあったものの代替イベントが開催され、活動休止期間もなく、先生方や学務課の方々のご配慮もあり順風満帆に活動を行っています。更に今年は新進気鋭の1年生が多く入ってきてくれました。経験者も未経験者も才気に溢れた後輩ばかりで、2年生以上の部員も触発され部内が非常に活気付いている印象です。

2022年は12月に実施する予定の定期演奏会に向け練習を行っています。今年度より定期的に設けている部内ミニコンサート、学務課の方やダンス部が設けてくださった医学祭代替イベント「医学部音楽まつり」、何より各自の練習の成果もあってか、部全体の、特に大学に入ってから弦楽器を始めた未経験者のレベルが、例年に比べ高いように感じます。定期演奏会ではその成果をOB・OGの先生方にもお見せできるよう鋭意努力していく所存です。

最後になりますが、私たちがこのように活動できているのは、OB・OGの先生方の楽器の寄付をはじめとしたお力添えがあってこそです。この場をお借りして日頃の感謝を申し上げます。これからも一層精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



支部紹介

第20回 愛媛大学医学部同窓会東日本支部会総会報告

第20回東日本支部総会は、2022年1月22日(土) Zoomによるオンラインで開催されました。当番幹事は20期生の松山隆生先生(横浜市立大学消化器腫瘍外科学准教授)と石岡淳一郎先生(船橋総合病院泌尿器科)で、会計報告は幹事長西井鉄平先生(横浜市立大学附属市民総合医療センター医療・診療情報部部長)からなされました。

特別講演座長は当番幹事の松山隆生先生の重厚な司会で進み、第一題は17期生で2020年鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野教授に就任された中村雅之先生でした。「精神神経疾患の分子精神遺伝子学-ベッドサイドからのGlocal研究を目指して-」のタイトルで、精神疾患の分子遺伝子学的細分化について講演されました。精神疾患の多様性から即治療につながるには時間がかかるとの見解を示されましたが、最先端の遺伝子研究による疾患細分化に近い将来良質な治療につながることを期待しております。

次の座長は石岡淳一郎先生が担当され、第二題は11期生でふかやクリニック院長の古閑比斗志先生が「ウイルスと外交」のタイトルで講演されました。外務省で長年活動された多彩な国際活動を基盤に、新型コロナウイルス感染症もオミクロン株に変わり病原性は低下しましたが、スペイン風邪の歴史から3年ほどで病原性が軽症化しても、その後10年ほどは小さな流行を繰り返す歴史をご教授頂き、改めて管理者として気を引き締めるの必要性を感じました。

新型コロナウイルス感染症第6波の真っ只中ですが、22名の同窓生にご参加頂きました。19期までと20期以降のグループ分けがなされた交流会となり、楽しみにしていた参加者全員のひと言近況報告が聞けなかったことが残念ですが、同窓生の皆さんのご活躍や、色々な形の医療展開で地域貢献や世界貢献をされているお話をうかがえたのはとても貴重で、楽しい時間でした。

2021年に東京オリンピックパラリンピック2020を安全下に終えた日本が2022年をどのような年として成長していくのか、2023年の本総会がどのような形で開催できるのかは未定ですが、私達の能力や想定を越える事態に遭遇しても、覚悟を決めてともに歩める同窓の仲間達がいるだけで、ありがたいと思います。

ご参加いただいた同窓の皆さん、本当にありがとうございました。

令和4年1月22日
(文責 酒向 正春 9期)

(大泉学園複合施設/ねりま健育会病院長・ライフサポートねりま管理者)



愛媛の医師をまじめに募集中!

愛媛プラチナ えまひめ

ドクターバンク事業のご案内

愛媛県・愛媛県医師会・愛媛大学医学部連携事業

専門医として積み上げてこられた多くの
経験・知識・技術を、愛媛県で
活かしていただませんか。



愛媛県イメージアップ
キャラクター みきゃん

Web から簡単に
登録できるけん!!

医師無料職業紹介

<https://www.ehime-doctorbank.jp/>



愛媛県
タークみきゃん



きめ細かく誠意をもって
お手伝いさせていただきます

秘密を固く守ります

手数料はかかりません

打ち合わせにお伺い
いたします

あなたのご希望を
最優先いたします

お問い合わせ先は
こちら

一般社団法人 愛媛県医師会 愛媛プラチナドクターバンク事務局

〒790-8585 愛媛県松山市三番町4丁目5-3

電話：089-943-7582 FAX：089-933-1465

E-mail p-dr@ehime.med.or.jp 担当 (中田)

愛媛県保健福祉部社会福祉医療局医療対策課

〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2

電話：089-912-2449 FAX：089-921-8004



愛媛県
こみきゃん

2022年度同窓会役員

役 職	氏 名	卒業年(期)	所 属
会 長	薬師 神 芳 洋	S63 (10)	臨床腫瘍学
副 会 長	武 田 定 典	S58 (5)	武田脳神経外科
常 任 幹 事	羽 藤 直 人	H元 (11)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	八 杉 巧	S57 (4)	基盤・実践看護学
監 査	藤 山 幹 子	H元 (11)	四国がんセンター 皮膚科
	日 浅 陽 一	H2 (12)	消化器・内分泌・代謝内科学
幹 事	檜 垣 高 史	S63 (10)	地域小児・周産期学
	恵 井 浩 之	H6 (16)	消化管・腫瘍外科学
	坪 木 敬 文	S55 (2)	先端研究・学術推進機構 プロテオサイエンスセンター
	松 田 正 司	S55 (2)	医療法人 順風会 老人保健施設 長安
	上 甲 康 二	S56 (3)	済生会西条病院・内科
	高 田 清 式	S56 (3)	附属病院 地域医療支援センター
	土 手 健 太郎	S56 (3)	愛媛県立中央病院 麻酔科
	大 谷 敬 之	S63 (10)	星の岡心臓・血管クリニック
	熊 木 天 児	H7 (17)	附属病院 総合臨床研修センター
	濱 田 信	H7 (17)	四国がんセンター 感染症・腫瘍内科
	鈴 木 純	H8 (18)	附属病院 医療安全管理部
	鍋 加 浩 明	H16 (26)	松山大学 薬学部 医療薬学科
事 務	池 内 佳代子		

あ と が き

日々心を新たに

同窓会の座談会は今年5回目(5期生)となりました。他の誌面も含め、今年と同窓会誌を楽しんでいただけましたでしょうか？いづれ巡り巡って座談会は皆様の代になります(来年は6期生です)。是非「我は」と思う方は声を上げて頂ければと思います。

本号の巻頭のごあいさつは、同窓会常任幹事紅一点の藤山幹子先生にお願いしました。当大学皮膚科ご出身の藤山先生は、今年から四国がんセンターの副院長に就任されました。そう言えば、済生会西条病院院長の岡田眞一先生は1期生、喜多医師会病院院長の住元巧先生は2期生、西条中央病院院長の風谷幸男先生も2期生(岡田先生、住元先生には本同窓会の紙面にも登場して頂きました)。また、愛媛医療センター院長の阿部聖裕先生は8期生、市立八幡浜病院院長の大蔵隆文先生も8期生、昨年就任した県立今治病院院長の川上秀生先生も愛媛大学の出身の11期生です。県立新居浜病院院長は同期(10期)の堀内淳先生でした。今年は、市立宇和島病院院長に脳外科出身(8期生)の善家喜一郎先生も就任されました。同窓生にとってはおめでたい限りです(すいません、その他の病院とお名前が入っていない場合はご容赦ください)。50年の医学部の歴史から当然と言えば当然ですが…(そろそろ県立中央、松山日赤、四国がんセンターの院長も愛媛大学出身者でいかがでしょうか?)。

今年も座談会参加の先生方から、卒業時の写真や卒業記念誌を拝借し、写真を撮らせて頂きました。懐かしいお顔も拝見出来ます。当時の学部長は柿本康男初代精神科教授。また学長は医学部から初めて赴任された坂上英初代眼科教授でした。お二人のお写真を同窓会誌に載せさせていただきました。

柿本先生の卒業生に送る言葉は、「権威に盲従せず、自由な批判精神を持ち、あくなき探究心に富む心に真理は開示される」で終わり、坂上先生におかれましては、「Ein Arzt lernt niemals aus.(謙虚に、常に新しい知識を求めて努力して欲しい)」と短く結んであります。歳をとって参りますと、つつい日々の生活に流され、また新しいものに対する興味や意欲が薄れて参ります。私自身も、このCOVID-19 pandemicにより学会から遠のき、研究会へのWeb参加すらおっくうになっております。衰えが始まっているのかも知れません。お二人のお言葉から、COVID-19や時の流れ、はたまた老化にあらがうのでは無く、時代とともに歩めるしなやかさと強さを持ちながら、日々精進したいと思います。

私の職場には、恩師である第一内科初代教授の小林譲先生から頂いた形見の額があります。そのタイトル「Walk every day renewing your heart!(日々心を新たに!)」で来年も歩んでいきたいと願います。

2023年こそ、懇親会を含めた同窓会総会(8月5日土曜日)、そして50周年記念祝賀会(10月7日土曜日)(松山ANAクラウンホテル)でお会いしたいと思います。厳しいこの折、どうか皆様がまっすぐに、そしてしなやかに進んで行かれますようお願いしております。

第6代同窓会会長 薬師神 芳洋(10期生)



愛媛大学 学長 坂上 英先生

Ein Arzt lernt niemals aus.

諸君の卒業に際して、この言葉を
おくる。
強いて訳せば「医師たる者には、
もうこれ以上学ばなくともよいと
いう時は、決して来ないものであ
る。」ということになる。
謙虚に、常に新しい知識を求めて
努力してほしい。

学長
坂上
英



《会員の個人情報に関する取り扱い》

愛媛大学医学部同窓会は、会員の個人情報の保護と適正な取扱いに取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 個人情報の使用目的

同窓会が取得した個人情報は、以下の目的に使用されます。

- ・同窓会名簿の作成
- ・定期的刊行物(会報、名簿)の送付
- ・同窓会会費徴収のための業務
- ・事務連絡及び各種文書の送付
- ・支部会の行事開催に関する事務連絡及び各種文書の送付

2. 個人情報の提供

会員から情報の紹介依頼があった場合、折り返し対応させていただきます。また、第三者からの電話照会等での返答は致しかねますので、ご了承下さい。

3. 個人情報の管理

「会員名簿」は、施錠保管しており、「データベース」は、インターネットに接続していない専用PCで独立した作業を行っております。

《次号会報原稿募集》

★同期会報告

幹事の方は、氏名、卒業年、開催予定日を事前にご一報下さい。

- 条件
1. 正会員20名以上の参加
 2. 報告文、集合写真を提出(会報原稿)
 3. 会費未納者への納入勧誘
 4. 2年に1回

★学生海外研修留学報告・医学祭報告(学生会員)

学年、氏名を事前にご一報下さい。

- 条件
1. 報告文、写真を提出(会報原稿)

《会費納入のお願い》

同窓会活動は、会員の皆様の会費で支えられております。会費納入をお忘れの方は、お早めに同封の用紙にてお振り込み下さい。

郵便振替NO. 01620-0-6644
ゆうちょ銀行169店 当座預金6644
加入者名 愛媛大学医学部同窓会
入会金を含む終身会費5万円

《会員名簿の不正使用禁止》

会員名簿は、会則により会費納入者のみ、一会員一冊の配布となります。

第三者に渡り不正に使用されますと、会員に多大な迷惑がかかります。他人に譲渡しないよう、また破棄する場合も特段のご配慮をお願い致します。事務局としても最大の注意を払っておりますが、皆様のご協力をあわせてお願い致します。なお、会員名簿の再送付は致しかねますのでご了承下さい。

注)卒業生と偽り、名簿の請求や他の会員の住所照会の問い合わせ電話があります。原則として電話での問い合わせには、即答致しかねますので何卒ご了承下さい。また、不審な業者から会員の方へ直接問い合わせがある場合も十分ご注意くださいようお願い致します。

《お願い》

会員の皆様のご寄稿、ご意見及びご感想などは是非お寄せ下さい。また、会報で取り上げてみたいテーマ、企画等アイデアがございましたらご一報下さい。お待ちしております。

お知らせ

第39回

愛媛大学医学部同窓会通常総会

次回通常総会の開催予定をお知らせします。日程が8月第1土曜日に変更となりました。特別講演会も予定しております。詳細につきましては、HPに掲載予定です。万障お繰り合わせの上、ふるってご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日時：2023年8月5日(土) 16時～
場所：松山市内を計画中(Web視聴可能)
議題：事業報告及び会計報告、予算の承認、その他

連絡先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

愛媛大学医学部同窓会事務局

TEL：089-960-5989(受付 平日10時～15時)

FAX：089-960-5989

E-mail：eusmdoso@m.ehime-u.ac.jp

H P：http://www.m.ehime-u.ac.jp/dosokai/igaku/